



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局

〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1

発行人(局長)
稲留 駿斗
(電気科3年)

建築科

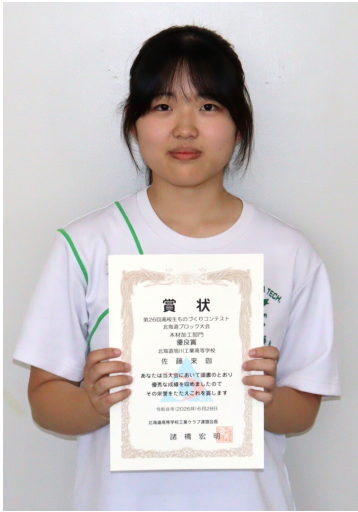
木材加工部門

佐藤さんが来年全国へ

朝比奈さん 練習の成果を発揮

第26回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の木材加工部門で佐藤来珈さん(建2)が参加選手の2年生の中で最上位の4位に入り、来年8月に島根県で行なわれる若年者ものづくり競技大会の出場権を得た。

建築科は6月27～28日に釧路工業高校で行なわれた第26回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の木材加工部門に3年生の朝比奈由依さんと2年生の佐藤来珈さんが出場した。結果は朝比奈さんが3位で優秀賞を、佐藤さんが4位で優良賞を受賞した。



優良賞を受賞した佐藤来珈さん(建2)

競技内容は制限時間3時間以内に木材を加工して作業馬(さぎょううま)を作る。作品の綺麗さや線の汚れなどが審査される。大会前の練習は平日2時間30分、休日は6時間やった。朝比奈さんは「今回の結果は昨年よりも順位が上がったので良かった。これまで練習してきた成果を発揮できた。加工では満点を取ることができ、自分でも納得のいく結果になったのが良かった。図面の結果が悪く、順位が3位まで下がってしまったため、どこが良くなったのかを見直した」と話した。

佐藤さんは「2年生の中で1番で来年の若年者ものづくり大会の化学分析部門が6月

土木科

測量部門

ミスを少しでも減らす

3人の声かけを意識する

土木科は8月5～6日に帯広工業高校で行なわれる第26回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の測量部門に3年生の下田遥斗君、2年生の鈴木斗唯君、橋立亮志君の3人が出場する。外業では事前に五角形に約30mの間隔でタックピンが設置されており、そのタックピンから測量機械(トータルステーション)を交代で使い、正確な距離と角度を測量する。内業では外業で測量した値を使い計算する。制限時間は外業が30分以内で、内業が20分



左から鈴木斗唯君、下田遥斗君、橋立亮志君

以内だ。大会では測量のスピードと機械の扱い、計算では正

確性が評価される。練習ではグラウンドで五

間トランス測量をし、計算をしている。練習時間は1日2時間。大会が近づくと毎日する。目標は全国大会出場だ。

下田君は「3年生が私だけなので測量チームをひっぱりたいと思っている。外業では初歩的なミスをしながら素早く直す」と話した。



測定をする稲場優太君(化3)

工業化学科

化学分析部門

稲場君 1位と1点差

練習通りに作業できた

第26回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の化学分析部門が6月

26日に札幌琴似工業高校で行なわれ、工業化学科3年の稲場優太君が2位になった。

り競技大会に出場できるのでうれしい。3位以内に入賞したかった。練習ではタイムが間に合っていなかったが、本

番ではタイムを意識してできた。穴あけの加工がうまくいった。となりにいた2年生のスピードが速く、飲まれそうにな

稲場君は「本番では一番前の席で多くの先生方に器具の取り扱いを見られ、目が合うのでとても緊張した。しかし、作業は練習通りにすることができてうれしかった。反省点は、本番は時間が限られ、3回ずつやる作業を1回ずつにして無理やり終わらせた点。結果は1位と1点差で2位だったのでとても悔しかった。後輩へのアドバイスは、どうにでもなれと思いながらやったから緊張しない」と語った。

新聞局は7月28～30日に秋田県潟上市で行なわれる第50回全国高等学校総合文化祭の新聞部門に小西輝君(電2)と小寺侑喜君(化2)が参加する。新聞局が総文祭に参加できるのは、全国高校新聞年間紙面審査賞の第1次審査を通過し入賞枠で招へいされる場合か、北海道高等学校文化連盟から推薦された場合である。今回の総文祭には新聞局は11回目の入賞枠での参加となる。道高文連からの推薦を含めると13回目の参加。

旭工生のおかげ 13回目の全国新聞局

部局員と交流し、他校の新聞制作技術を学んできた。私は風力発電の現場を取材するので電気科としての強みも生かしたい。一緒に参加する小寺君は秋田の伝統文化である『なまはげ』を取材する。地域研修では秋田の夏祭りである『竿燈』について取材。帰校後に報告号を制作する。また、全国大会へ参加できるのも日頃から旭工生の皆さんが取材に協力してくるおかげ。全国大会で得たものを新聞づくりに生かし、より良いものを制作していきたい」と語った。



私はいきものがかりの吉岡聖恵が大好きだ。もちろんいきものがかりも好きだ。好きになったきっかけは昨年の秋に友達と新しくできたエディオンに行ったときのことだ。テレビコーナーを見ていたときいきものがかりの「気まぐれロマンティック」が流れていた。家に帰ってから「そういういえばあの曲いい曲だったな」と思い出し調べてみた。そして聞くとやっぱりいい曲だった。これが私が吉岡聖恵を好きになったきっかけだ。

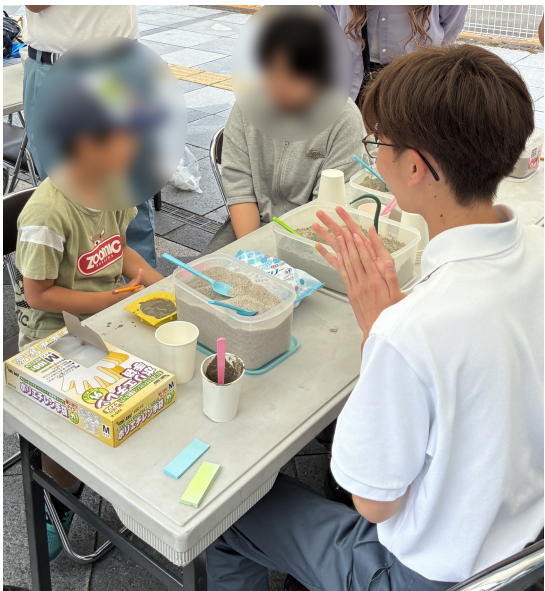
▼他の様々な名曲と出会う中で私が思う吉岡聖恵の良い所は二つある。一つ目は唯一無二の歌声だ。透明感がありながら力強く、優しさも感じられる。二つ目は人柄の良さだ。笑顔が素敵で親しみやすい話し方をし明るく、性格の良さが伝わってくる。こういったところが彼女の魅力だと思う。そして歌詞の一つ一つに意味がこもっている。▼今、自分が一番好きな曲は「笑顔」だ。歌詞に「すべてがまた変わってしまっても何度でも花を咲かせよう」とある。私はこの歌詞の「すべてがまた変わってしまった」は別れや卒業何かを失うなど人生においての環境の変化を、「花」は曲名の笑顔や幸せ、希望を、「咲かせよう」は一緒に作っていくことを表していると思う。つまりこの歌詞は「どんな変化があっても、また笑顔になれる未来と一緒に作っていく」という意味だと考える。この歌詞は私に希望を与えてくれた。(化2長野)

まちなかキャンパス2026

ワークショップで旭工PR

土木科がまちなか表彰で優勝

SDGsをテーマにした「まちなかキャンパス2026」が6月20～21日に旭川市平和買物公園で行われ、37の学校や団体が参加し、展示ブースは79か所あった。旭工からは5学科がワークショップやイベントに参加し、旭工の授業活動をPRした。



ペーパーウェイトの製作を楽しむ子どもたち(左)

子どもたち向けの体験では「ペセルトイ作りなどを行なった。来場した男子小学生は「木のキーホルダー作りでやり作業が少し大変だったが、楽しかった。来年も参加し、コンクリートのペーパーウェイト作りや電線を使っておもちゃ作りをしてみたい」と話した。

女子中学生は「ペーパーウェイトと木のキーホルダーを作った。とても楽しかった。来年も来て何か作りたい。特にプレゼントできるものを作りたい」と語った。気に入った展示ブースに「いいね！札」を投票する「まちなか表彰」では、参加者間の投票部門で79か所の展示ブースの中から旭工の土木科が優勝し、7月26日にデザインギャラリーで表彰される。

けががないよう
安全第一で体験

建築科のテーマは「伝統文化を守りつつ自然を世に広める」で、3年生4人が参加し木の板に穴をあけてキーホルダーを作る「コップホルダーの製作」体験を行った。水口怜央君(建3)は「子どもたちが体験をするイベント

手元を見ながら
サポートできた

土木科のテーマは「コンクリートで世界に二つのペーパーウェイトを作ろう」。3年生4人、2年生5人の計9人が参加し「ジェットセメントを使用したペーパーウェイト製作」をした。

子どもたちの
ニーズを理解

電気科のテーマは「電気が見える実験教室」。3年生6人、2年生3人、1年生4人の計13人が参加し、七色に光るLEDを使用したペンダントと静電気を使得って紙で作った餌を紙のパンダに食べさせる道具を作った。



はんだづけを教える山田君(電1)

説明生徒の
配分を工夫

情報技術科のテーマは「アバター制作・卒業生が製作した作品の体験」。3年生6人、2年生5人、1年生2人の計11人が参加し、過去の先輩が作ったクレーンゲームの展示やVRoidを用いたアバター制作、個人制作のゲーム体験をした。

小久保怜君(情3)は「子どもたちに1、2年生が操作方法を教え、保護者や地域の方々に3年生が展示品の説明をした。アドリブで説明しな

言葉遣いに
気を付けた

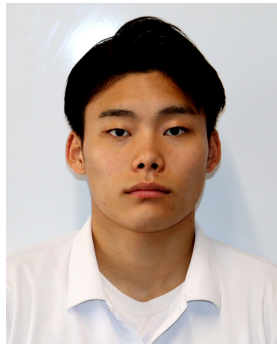
電子機械科のテーマは「3Dプリンターとプラバン製作体験」。3年生4人、2年生4人の計8人が参加し、子どもたちに「3Dプリンターの稼働時の動きの見学とプラバンの製作の体験」などをしてもらった。

青山将大君(機3)は「普段小さい子どもたちと関わることはないので接し方に苦労した。子どもたちに分かりやすく、イベントの内容を伝えることや言葉遣いなどにも気を付けた。旭工での活動を伝えられて良かった。まちなかキャンパスに参加できて本当に良かった」と語った。

水泳

2年連続全国出場

大会に向け最善を尽くす



鈴木広大君(電3)

鈴木広大君(電3)は7月10～12日に江別市で行われた第79回北海道高等学校選手権

水泳競技大会に出場し、1500m自由形で2位(17分37秒)、400m自由形で5位(4分20秒)となり、1500m自由形で8月13～16日に滋賀県草津市で行われる全国高等学校総合体育大会水泳競技大会への出場を決めた。

鈴木君は「レースでは全力を尽くしたものの、悔しい結果に終わった。昨年、全国大会出場を決めたことや周囲からの期待もあり、自分自身には練習量に大きな差があり、タイムが30秒も遅くなっていたので、気持ちの面でも甘さがあった」と振り返った。



部員の皆が仲が良い書道部

第60回高野山競書大会

書道部

小堀さんが推薦
12人全員が入賞

書道部の12人が5月に応募した第60回高野山競書大会で入賞した。総出品数102485点中で小堀瑠海さん(建3)が推薦、渡辺杏胡さん(電2)が特選、伊藤杏那さん(建2)が準特選、有馬紗月さん(化3)と小野瑞季さん(建2)が金賞、宍戸葉菜さん(建2)と宮腰晏治君(化2)が銀賞、織本滯さん(化1)と高木葵さん(同)、宮部莉維さん(同)、松尾奏佑君(土1)、横塚陽人君(同)が銅賞を受賞した。

小堀さんは「上位の賞を取れてうれしい。制作期間中は進路活動やテスト勉強との両立が大変だった」と話した。渡辺さんは「高校から書道を本格的に始めたが、特選を取れてびっくりした。書く文字のバランスをとるのが難しかった。お手本にとらわれずに自由に書くことを意識して書いた」と話した。

伊藤さんは「準特選を取れてびっくりした。とてもうれしい。作品を書いたのが春休み明けで活動期間があいていたので、久しぶりで難しかった」と話した。